

2019 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	特定非営利活動法人エンディングノート普及協会
活動テーマ	プロボノを活用した被災地の生活再建支援の実践とこれからの災害に備えた活動の仕組みを構築する活動



日本は超高齢化時代に突入し、独居世帯や高齢者のみの世帯が増加し、地域の支えあい、地域コミュニティの再生が大きな課題となっています。とりわけ災害時には、避難時はもちろん発災直後から生活の変化に対する高齢者への配慮は必要不可欠ですが、避難所の環境改善は東日本大震災以降も課題が持ち越されています。発災直後に広島県三原市本郷町の水害地域にボランティアとして入った当協会代表理事の赤川の経験から、看護や介護、リハビリなど医療従事者の専門家による経験と知識を活かしたプロボノ支援の輪を広げるためにこの度の事業に取り組みました。

発災直後の避難所では、突然の災害に状況が把握できない、急激な環境の変化に思考力や判断力が低下し、断水によるトイレの使用制限から水分を摂らず体調を崩す高齢者が大勢います。若い人とは違ってスマホで情報が入手できない、聴力や視力の低下で情報を理解できないなど、高齢者の特徴を理解した支援は必要です。しかし医療従事者は「災害時のボランティア＝土砂撤去＝自分の体力では無理である」と判断している人が多いこともわかりました。そこで、自分の特技や資格を活かし、専門家の目線での整理整頓や声かけ、傾聴など、具体的な情報を提供することでプロボノ支援への理解を深めました。また専門家を招いた勉強会だけでなく、現地での継続的な支援活動を通して住民との信頼関係を築きながら、ボランティア自身が成長する機会にもなり、今後のプロボノ支援への意欲にも繋がりました。

東日本大震災以降、土砂撤去や住宅再建、大型重機を扱うボランティアなどは増えており、災害発生と同時に動き出す流れができています。ソフト面のプロボノ支援についても、すぐに動ける体制づくり、情報共有できる団体間の連携を早急に整えるべく、日常的に情報収集、情報発信を行っていきたいと思います。